

学生調査報告書

— 2020（令和2）年度調査 —

2021（令和3）年4月

横浜商科大学

IR委員会

目次

I. 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査方法	3
(1)実施期間	3
(2)調査・回答方法	3
(3)調査項目	3
3. 回答結果	4
II. 設問項目一覧	4
III. 設問別調査結果	8

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本学では学生の生活と意識の把握を通して学生指導と学生生活の支援や改善に資する基礎資料を得ることを目的に、1980年から4年おきに第1回から第9回までの学生調査を「学生生活実態調査」として実施してきた。2016年度には大学IRコンソーシアムに加盟して調査を実施した。2017年度より新たに教学比較IRコモンズに参加し、参加校共通の「ALCS学修行動比較調査」を実施することで参加校と本学の比較が可能となったが、参加校が女子大学中心であることなどから、適切なベンチマーキングを行い、教育内容等の改善に効果的につなげるのが難しかった。そこで2020年度は、文部科学省が2019年に試行実施した全国学生調査の設問を基に、本学独自の設問を加えて本調査を実施した。

調査名	実施年度	調査名	実施年度
第1回学生生活実態調査	1980	学生調査 2016	2016
第2回学生生活実態調査	1984	学生調査 2017	2017
第3回学生生活実態調査	1988	学生調査 2018	2018
第4回学生生活実態調査	1992	学生調査 2019	2019
第5回学生生活実態調査	1996	学生調査 2020	2020
第6回学生生活実態調査	2000		
第7回学生生活実態調査	2004		
第8回学生生活実態調査	2008		
第9回学生生活実態調査	2012		

2. 調査方法

(1)実施期間

2020年12月17日（木）～2021年1月15日（金）

(2)調査・回答方法

Web 回答調査

(3)調査項目

設問は大別すると、以下のとおりである。

- ① 大学の授業について（8問）
- ② 大学での経験について（8問）
- ③ 生活時間について（8問）
- ④ 大学教育について（11問）
- ⑤ 授業形態について（1問）
- ⑥ 本学ディプロマ・ポリシーのスキル（6問）

3. 回答結果

【学年別】

学年	学科	回答	未回答	総計	回答率
1	商	135	71	206	65.53%
	観光マネジメント	40	22	62	64.52%
	経情（スポーツ）	30	17	47	63.83%
	経情（情報）	16	8	24	66.67%
	計	221	118	339	65.19%
3	商	63	116	179	35.20%
	観光マネジメント	25	46	71	35.21%
	経営情報	25	61	86	29.07%
	計	113	223	336	33.63%
合計		334	341	675	49.48%

【学年別】

学科	学年	回答	未回答	総計	回答率
商	1	135	71	206	65.53%
	3	63	116	179	35.20%
	計	198	187	385	51.43%
観光マネジメント	1	40	22	62	64.52%
	3	25	46	71	35.21%
	計	65	68	133	48.87%
経情（スポーツ）	1	30	17	47	63.83%
経情（情報）		16	8	24	66.67%
経営情報	3	25	61	86	29.07%
	計	71	86	157	45.22%
合計		334	341	675	49.48%

II. 設問項目一覧

I. 大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか

1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
2. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた
3. 教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった
4. 小テストやレポートなどの課題が出された。 ※期末テストは除く

5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された
6. グループワークやディスカッションの機会があった
7. 教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
8. 主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった

選択肢：1.よくあった 2.ある程度あった 3.あまりなかった 4.ほとんどなかった

Ⅱ. 大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか

1. 大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目
2. 研究室やゼミでの少人数教育
3. （授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会
4. キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）
5. インターンシップ（5日以上に限る）
6. 海外留学（3か月以上に限る）
7. （学内で）自分とは異なる国の学生との交流
8. 図書館やアクティブラーニングスペースなど大学施設を活用した学習

選択肢：1.非常に有効だった 2.有効だった 3.あまり有効でなかった 4.有効でなかった
5.経験していない

Ⅲ. 授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間

1. 授業（実験・実習含む）への出席
2. 予習・復習・課題など授業に関する学習

3. 授業以外の学習
4. 部活動/サークル活動
5. アルバイト/定職
6. 就職に関わる活動
7. 趣味/娯楽/交友
8. スマートフォンの使用※学習のために使用している時間は除く

選択肢：1.0 時間 2.1-5 時間 3.6-10 時間 4.11-15 時間 5.16-20 時間 6.21-30 時間 7.31 時間

IV. 次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか

1. 専門分野に関する知識・理解
2. 将来の仕事に関連する知識・技能
3. 文献・資料・データを収集・分析する力
4. 論理的に文章を書く力
5. 人に分かりやすく話す力
6. 外国語を使う力
7. 統計数理の知識・技能
8. 問題を見つけ、解決方法を考える力
9. 多様な人々と協働する力
10. 幅広い知識、ものの見方
11. 異なる文化に関する知識・理解

選択肢：1.とても役に立っている 2.役に立っている 3.あまり役にたっていない
4.役にたっていない

V. これまでに受けた授業の形態

選択肢：1.大講義（100 以上） 2.中講義（50～100 未満） 3.小講義（50 未満）
4.演習・ゼミ 5.実験・実習

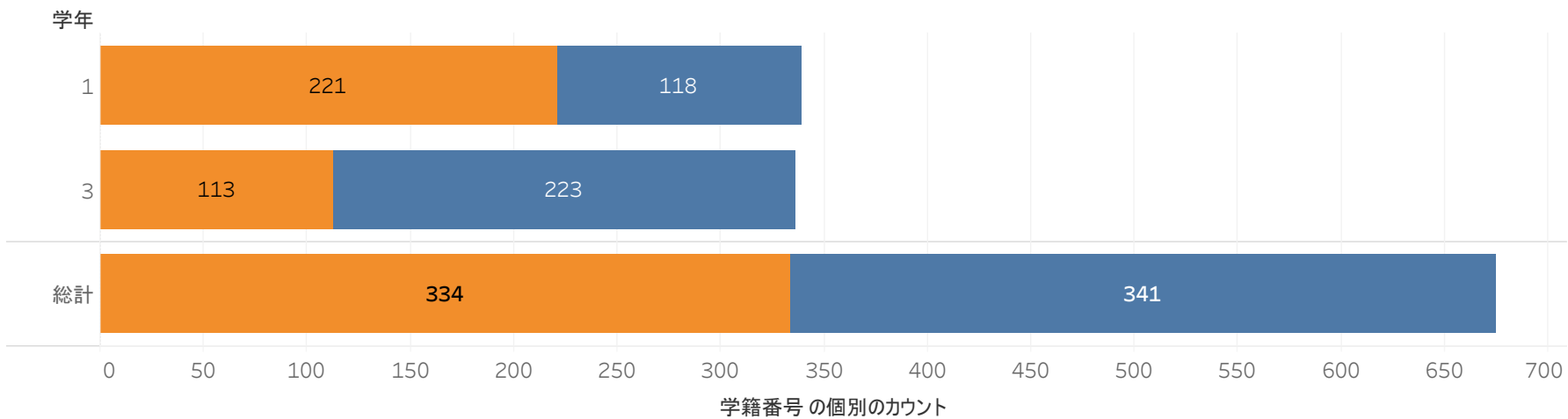
VI. 本学ディプロマ・ポリシー

1. グローバル化した社会で求められる幅広い教養とモラルを身につけ、各学科の基礎となる専門的知識・技能を修得できます
2. 多様な価値が共存する現代社会が抱えるさまざまな問題を発見、分析し、解決できます
3. グローバル化した社会で多様な価値観を持つ他者の意見に耳を傾け、自分の考えを口頭や文章で表現しコミュニケーションできます
4. 社会への貢献を志し、良き市民、良きビジネスパーソンとして行動できます
5. 主体的に行動し他者と協働できます
6. 自立したプロフェッショナルとして事を託されるような場面でその知識・技能を活用できます

選択肢：1.うまくできる,2.いづらかできる,3.あまりできない,4.まったくできない

III. 設問別調査結果

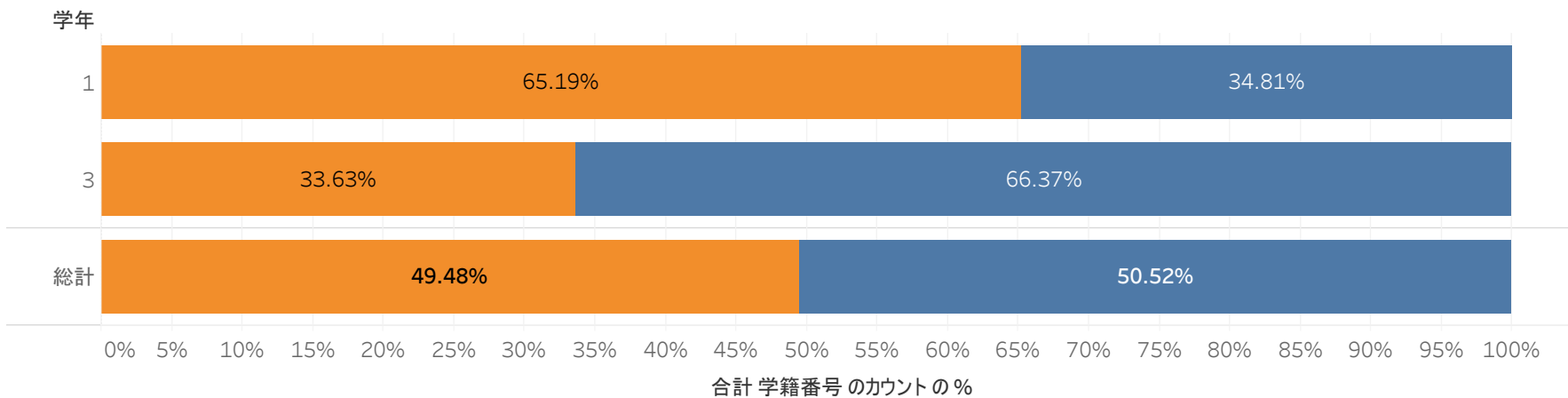
回答数(学年別)



各 学年 に対して 学籍番号 の 個別の カウント です。色は 回答状況 に関する 詳細を 示します。

回答状況
■ 未回答
■ 回答

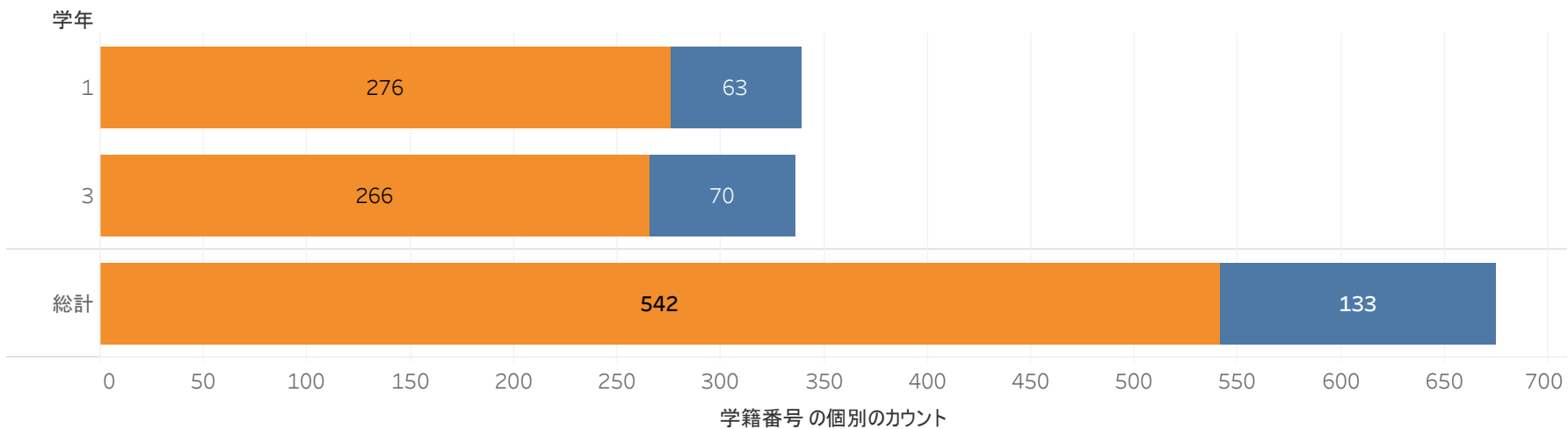
回答率(学年別)



各 学年 に対して 合計 学籍番号 のカウントの % です。色は 回答状況 に関する 詳細を示します。

- 回答状況
- 未回答
 - 回答

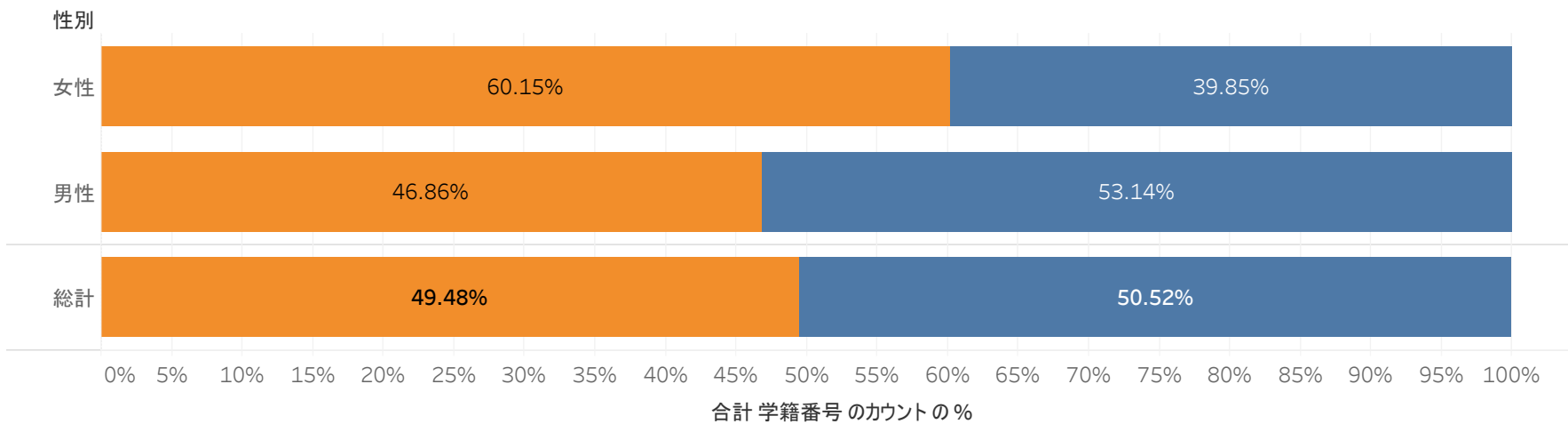
回答数(性別)



各 学年 に対して 学籍番号 の個別のカウントです。色は 性別 に関する詳細を示します。

性別
■ 女性
■ 男性

回答率(性別)



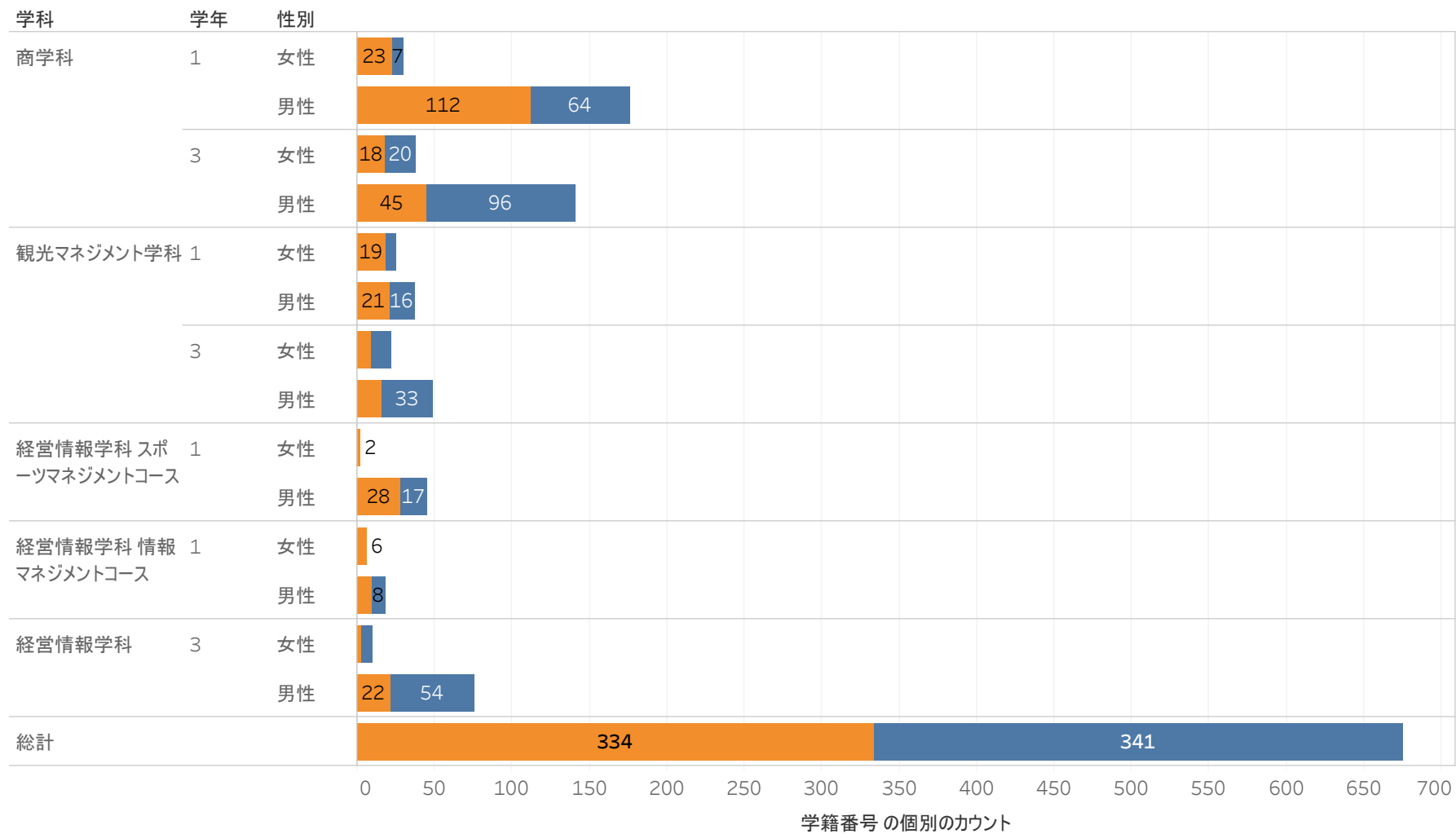
各 性別 に対して 合計 学籍番号 のカウントの % です。色は 回答状況 に関する詳細を示します。

回答状況

■ 未回答

■ 回答

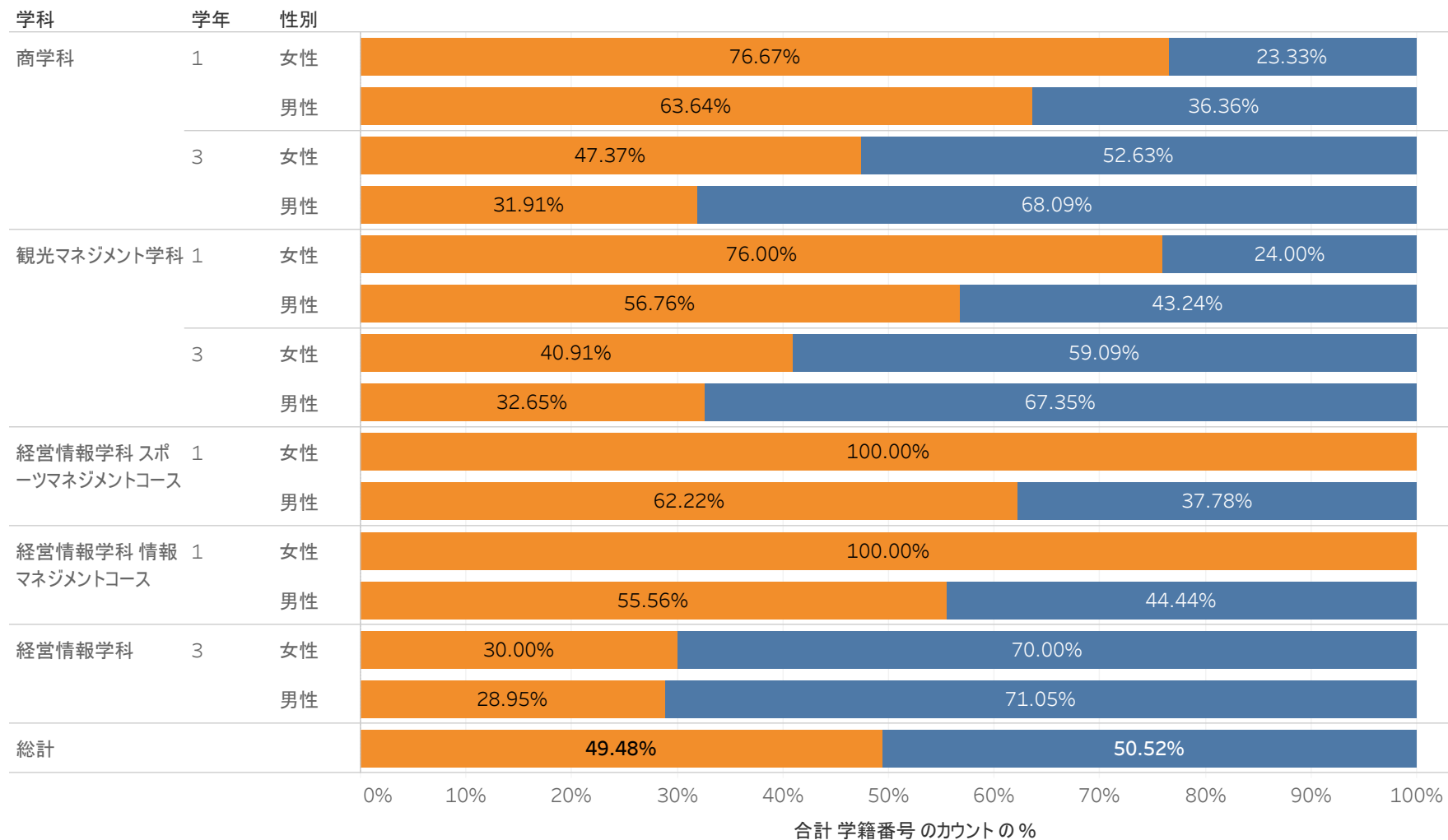
回答数(学科学年性別)



各性別に対する学籍番号の個別のカウントは学科および学年によって分類されています。色は回答状況に関する詳細を示します。

- 回答状況
- 未回答
 - 回答

回答率(学科学年性別)



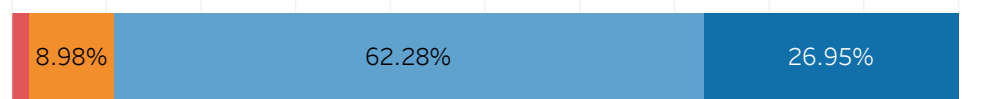
各性別に対する合計学籍番号のカウントの%は学科および学年によって分類されています。色は回答状況に関する詳細を示します。

回答状況
■ 未回答
■ 回答

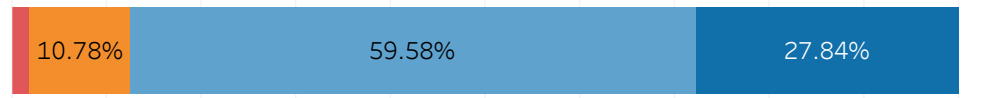
Q1大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか(全体)

大学に入ってから受けた授業では、以下の項目はどれくらいありましたか。

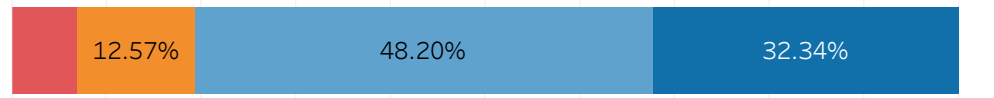
(Q1-1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた)



(Q1-2. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた)



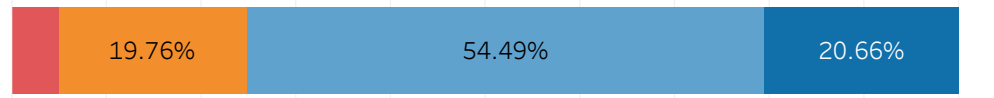
(Q1-3. 教員以外の者(アシスタントなど)が配置されており、補助的な指導があった)



(Q1-4. 小テストやレポートなどの課題がだされた ※期末テストは除く)



(Q1-5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された)



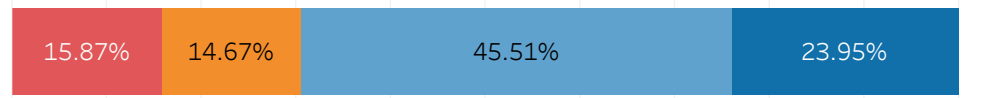
(Q1-6. グループワークやディスカッションの機会があった)



(Q1-7. 教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった)



(Q1-8. 主に英語で行われる授業(語学科目は除く)があった)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

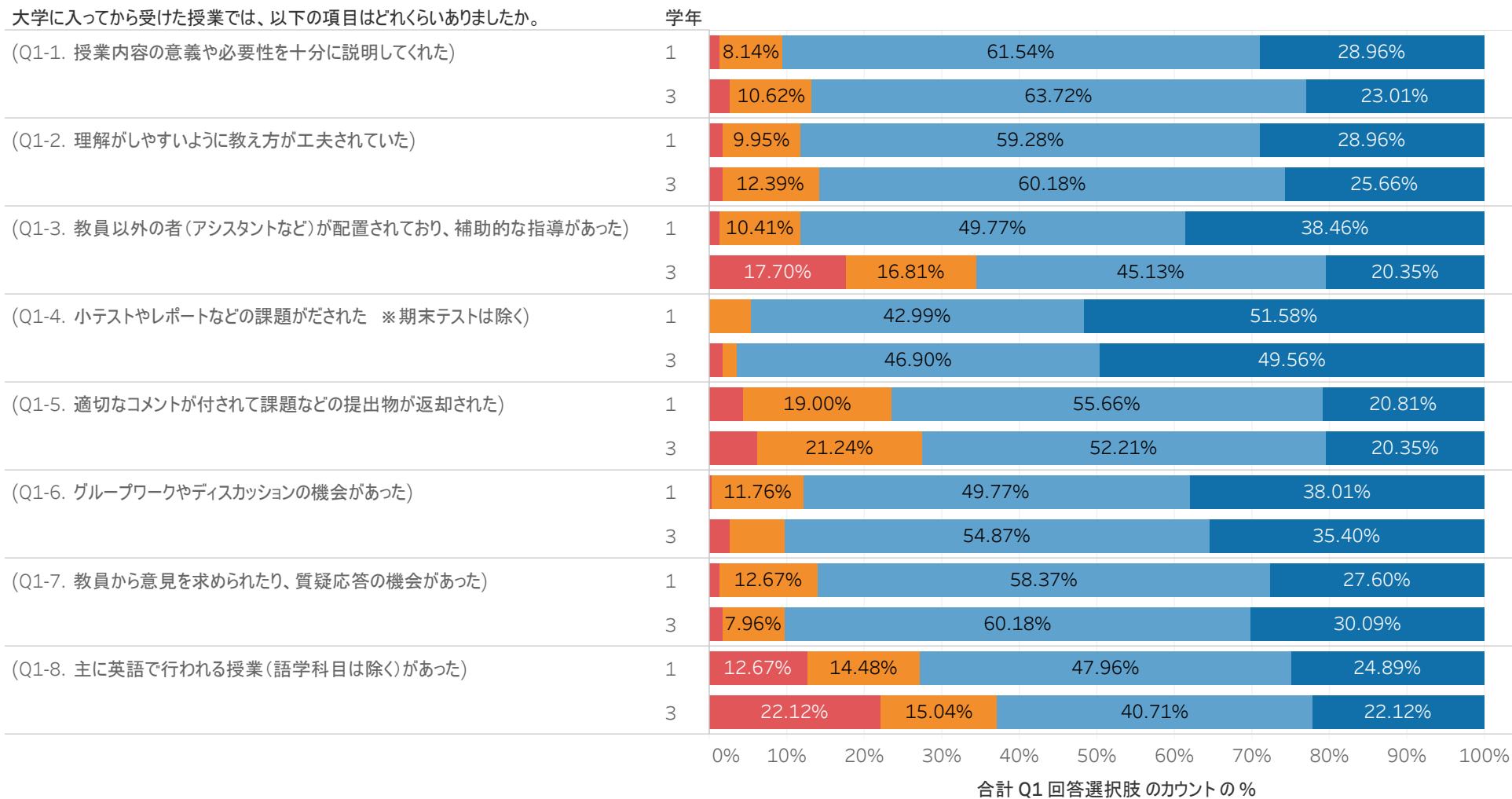
合計 Q1 回答選択肢 のカウントの%

Q1 回答選択肢

- よくあった
- ある程度あった
- あまりなかった
- ほとんどなかった

Q1大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか(学年)

大学に入ってから受けた授業では、以下の項目はどれくらいありましたか。



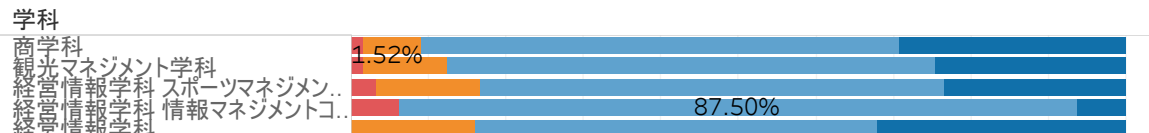
Q1 回答選択肢

- よくあった
- ある程度あった
- あまりなかった
- ほとんどなかった

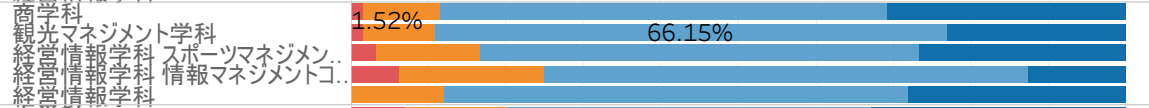
Q1大学に入ってから受けた授業では、次の項目はどれくらいありましたか(学科)

大学に入ってから受けた授業では、以下の項目はどれくらいありましたか。

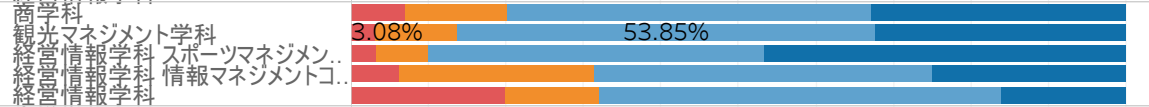
(Q1-1. 授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた)



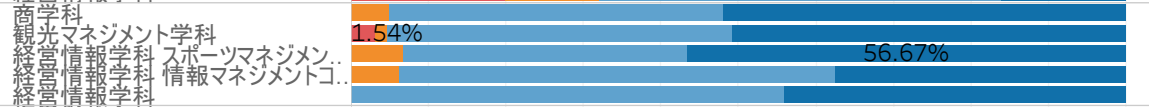
(Q1-2. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた)



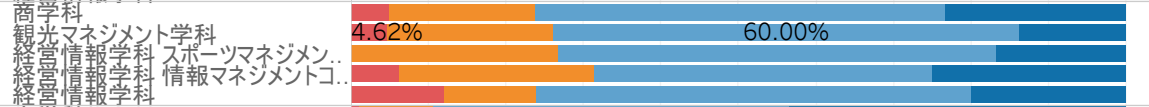
(Q1-3. 教員以外の者(アシスタントなど)が配置されており、補助的な指導があった)



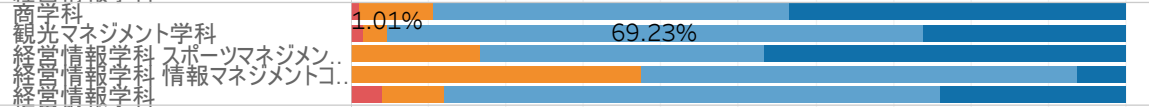
(Q1-4. 小テストやレポートなどの課題がだされた ※期末テストは除く)



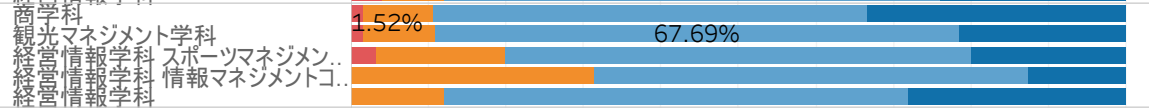
(Q1-5. 適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された)



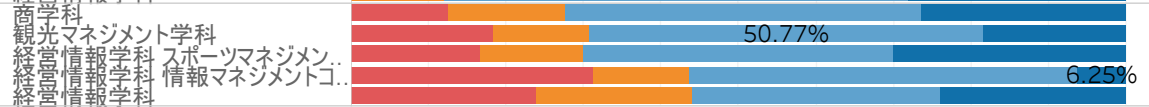
(Q1-6. グループワークやディスカッションの機会があった)



(Q1-7. 教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった)



(Q1-8. 主に英語で行われる授業(語学科目は除く)があった)

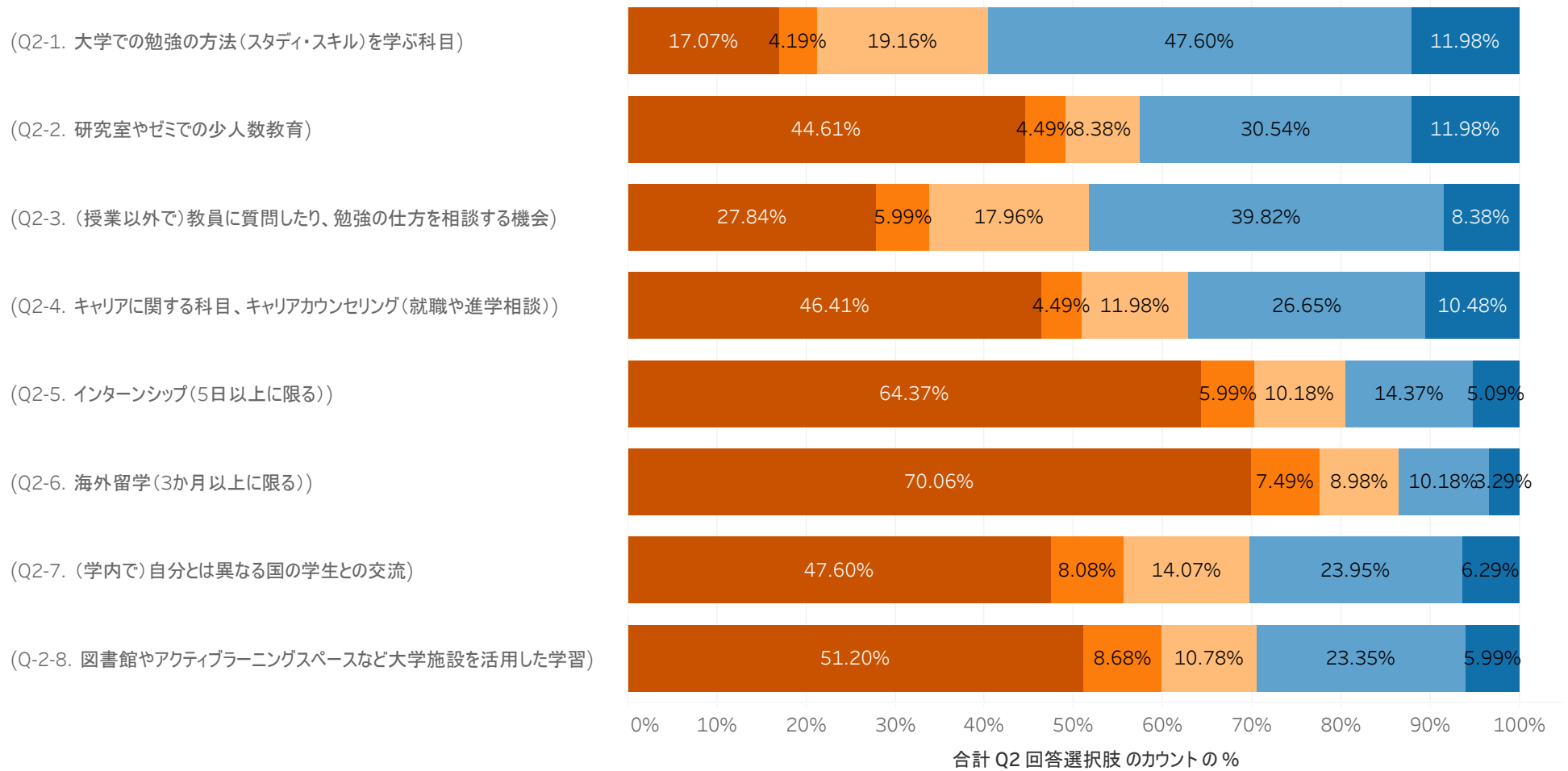


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
合計 Q1 回答選択肢 のカウントの %

- Q1 回答選択肢
- よくあった
 - ある程度あった
 - あまりなかった
 - ほとんどなかった

Q2大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか(全体)

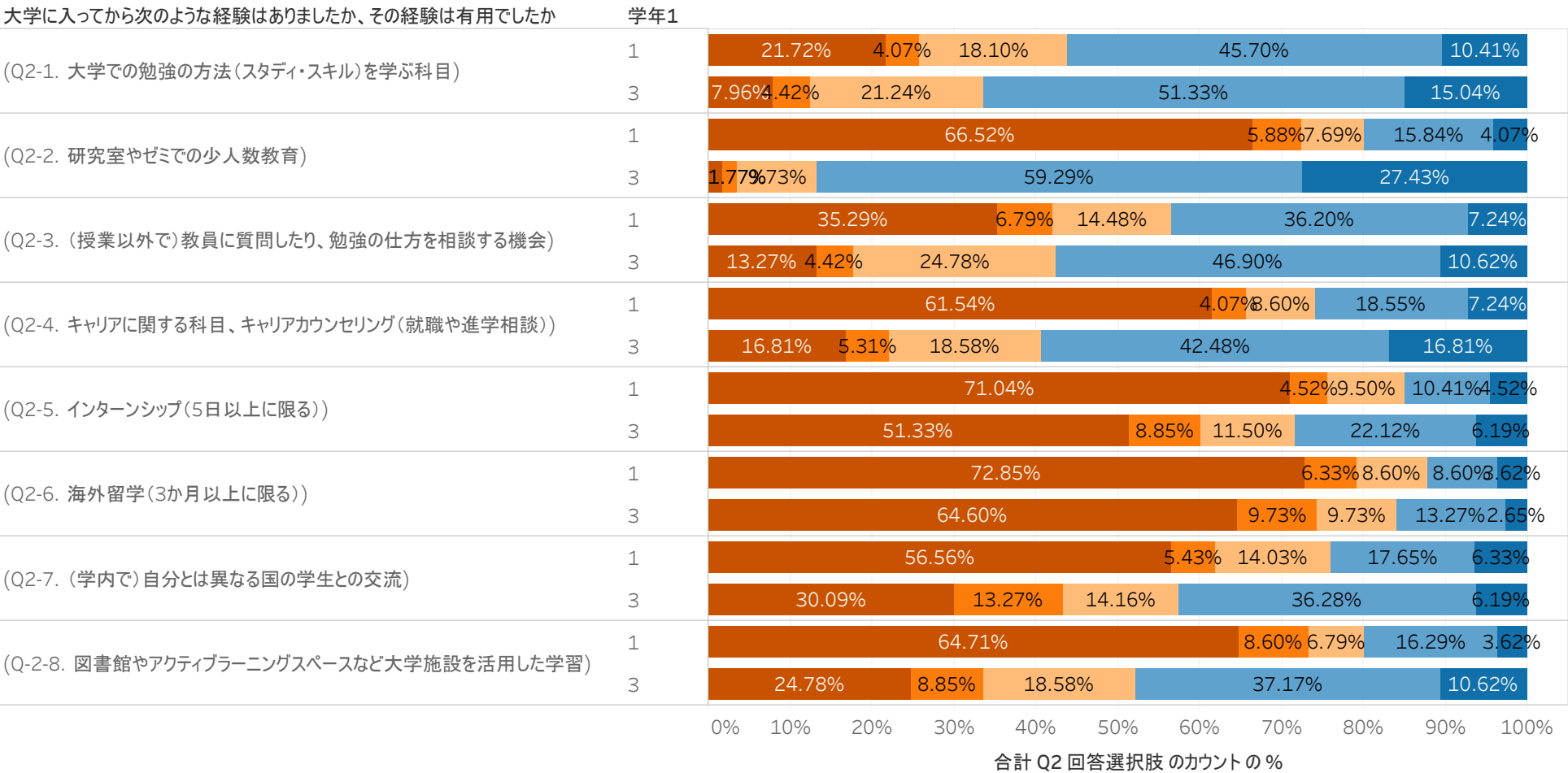
大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか



Q2 回答選択肢

- 非常に有効だった
- 有効だった
- あまり有効でなかった
- 有効でなかった
- 経験していない

Q2大学に入ってから次のような経験はありましたか、その経験は有用でしたか(学年)

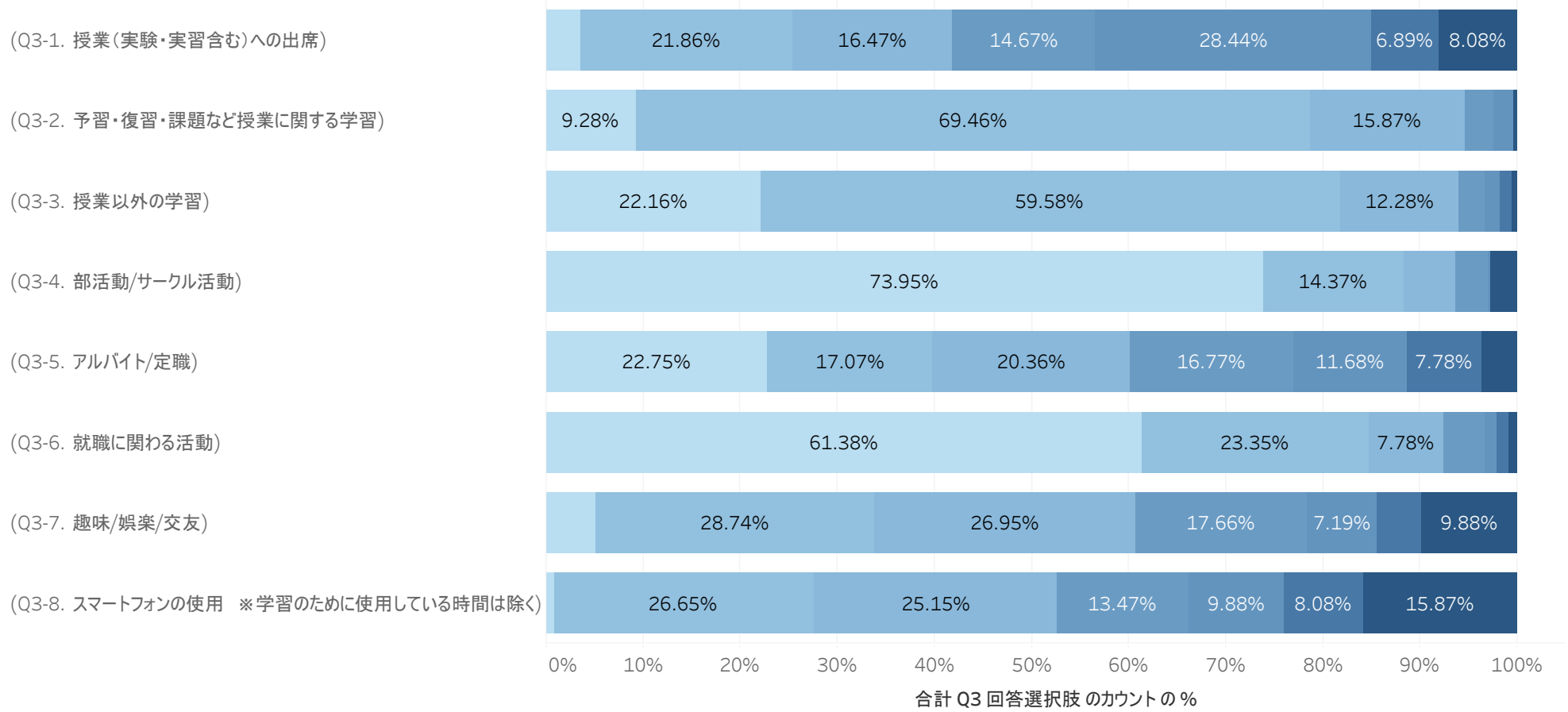


合計 Q2 回答選択肢のカウンットの%

- Q2 回答選択肢
- 非常に有効だった
 - 有効だった
 - あまり有効でなかった
 - 有効でなかった
 - 経験していない

Q3授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間(全体)

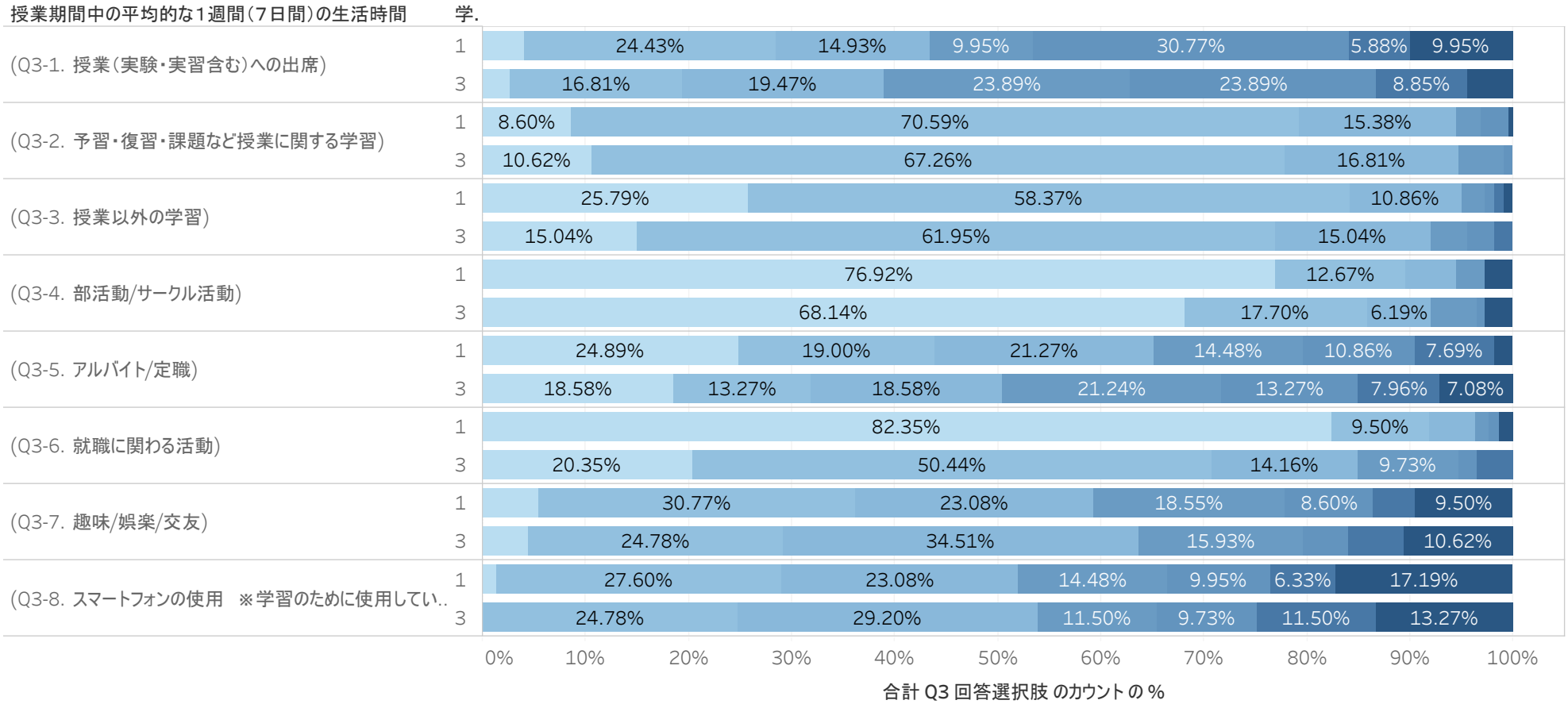
授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間



Q3 回答選択肢

- 7. 31時間
- 6. 21-30時間
- 5. 16-20時間
- 4. 11-15時間
- 3. 6-10時間
- 2. 1-5時間
- 1. 0時間

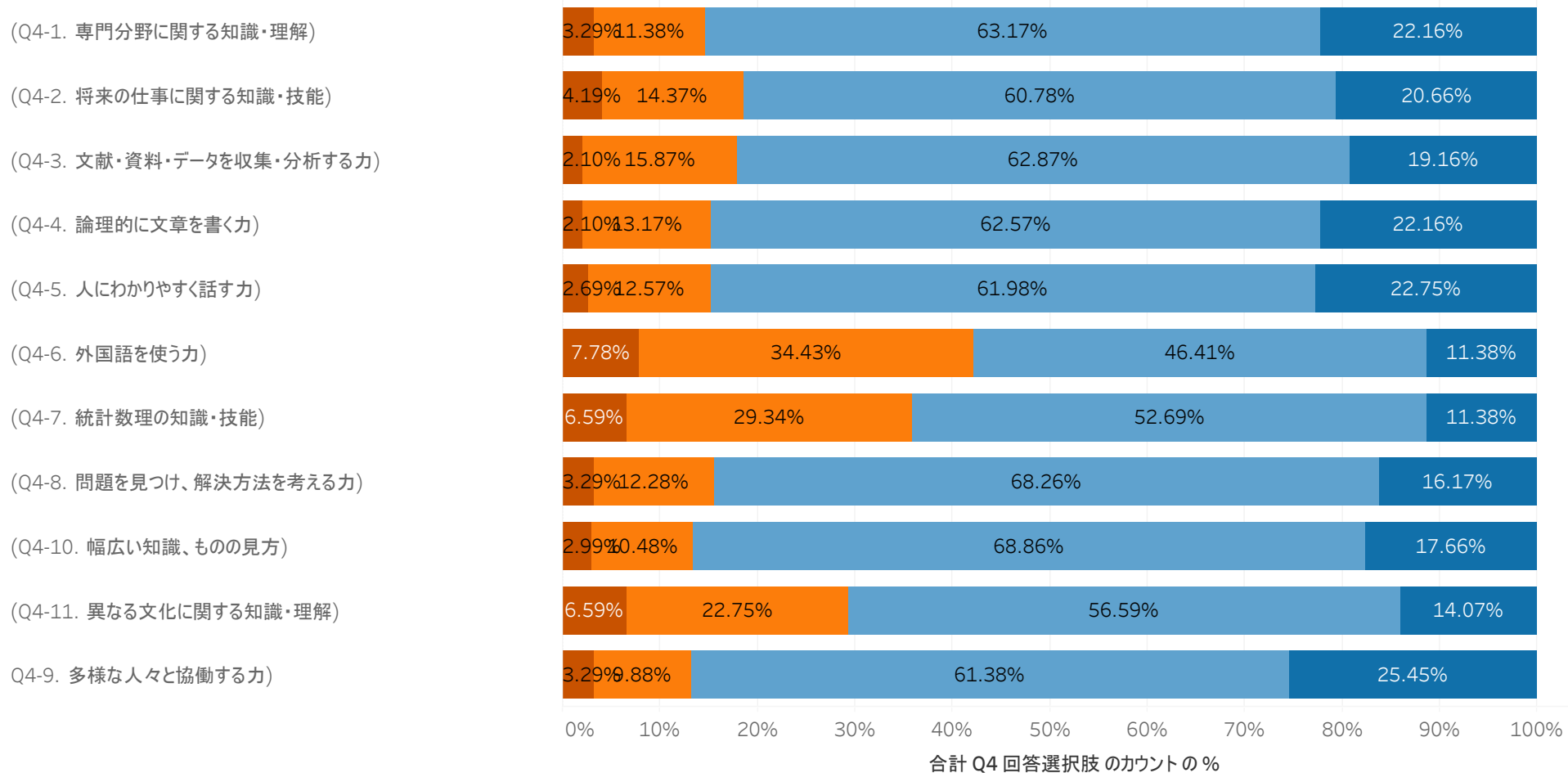
Q3授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間(学年)



- Q3 回答選択肢
- 7. 31時間
 - 6. 21-30時間
 - 5. 16-20時間
 - 4. 11-15時間
 - 3. 6-10時間
 - 2. 1-5時間
 - 1. 0時間

Q4次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか(全体)

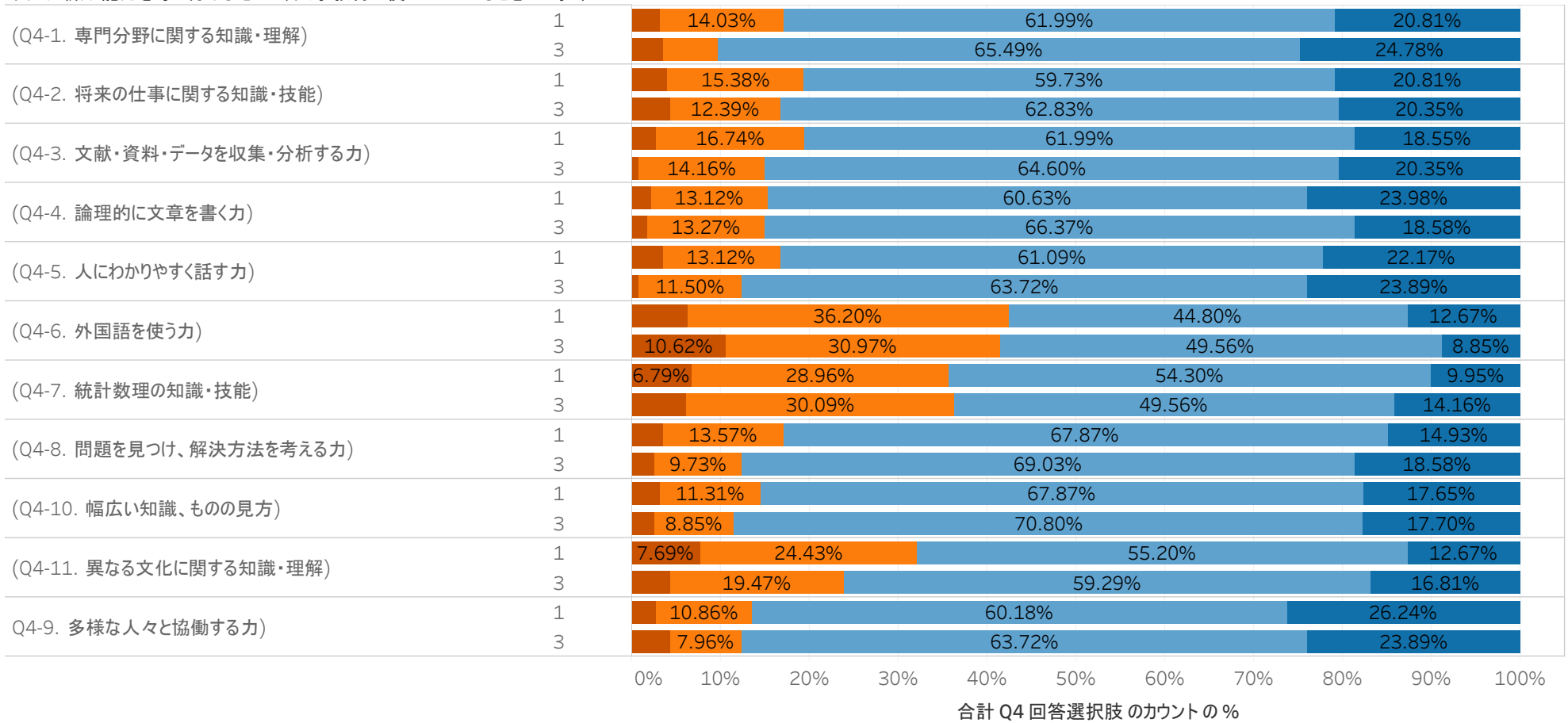
次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思..



- Q4 回答選択肢
- とても役に立っている
 - 役に立っている
 - あまり役に立っていない
 - 役に立っていない

Q4大次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか(学年)

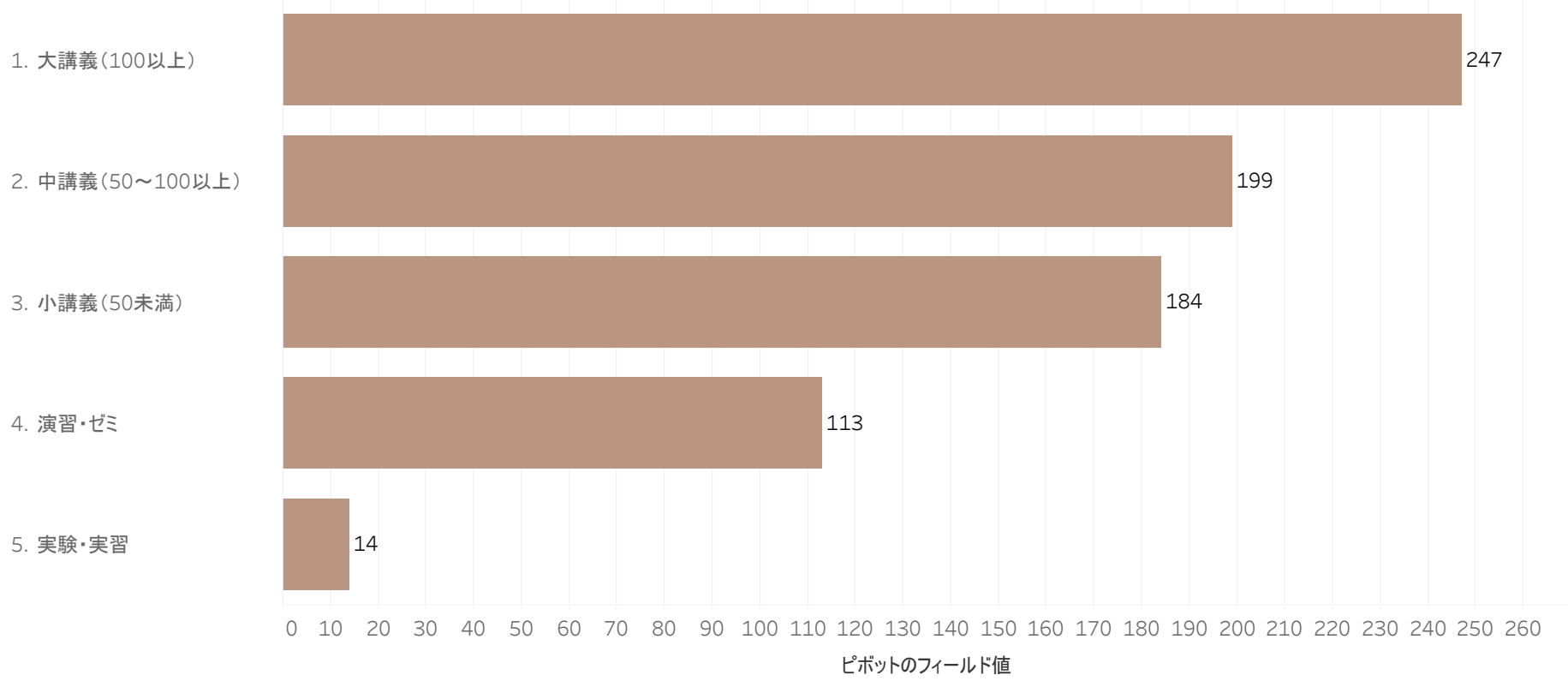
次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思.. 学年1



- Q4 回答選択肢
- とても役に立っている
 - 役に立っている
 - あまり役に立っていない
 - 役に立っていない

Q5これまでに受けた授業形態 (各形態累計)

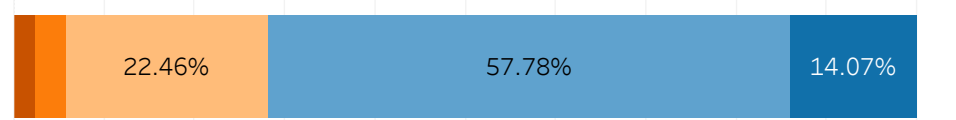
これまでに受けた授業形態



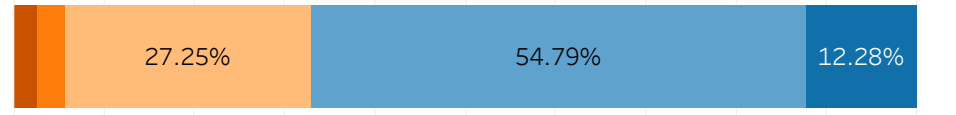
Q6本学ディプロマ・ポリシー（全体）

本学ディプロマ・ポリシー

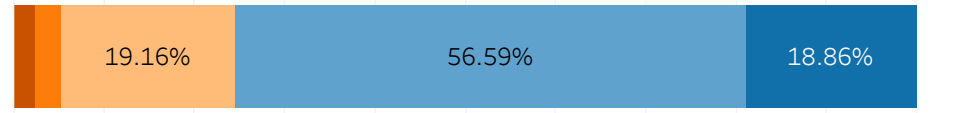
(dp:Q1. 社会で求められる幅広い教養、モラル、各学科の基礎的な知識・技能を身につけることができた)



(dp:Q2. 現代社会における問題を発見、分析、解決できる)



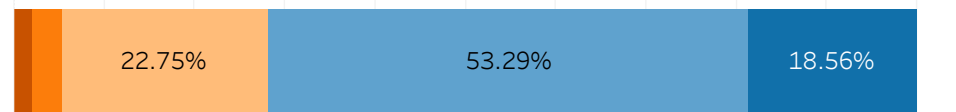
(Dp:3. 自分の考えを口頭や文章で伝え、多様な価値観を持つ他者とコミュニケーションできる)



(Dp:4. 社会への貢献を志す良き市民、良きビジネスパーソンとして行動できる)



(Dp:5. 主体的に行動し、他者と協働できる)



(Dp:6. 今後、自立したプロフェッショナルとして大学で学んだ専門知識・技能を活用できる)



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

合計 Q6 回答選択肢 のカウントの %

Q6 回答選択肢

- とてそう思う
- そう思う
- どちらでもない
- そう思わない
- まったくそう思わない

学 生 調 査 報 告 書

－ 2020（令和2）年度－

2021（令和3）年4月発行

編 集 横浜商科大学管理本部 IR・情報メディア部 IR 課

発行所 〒230-8577

神奈川県横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1

横浜商科大学 IR 委員会

電話 045-571-3901(代)

mail ir-office@shodai.ac.jp

無断で複写・転載することを禁じます。